



平成29年 6月29日

## 「わが村は美しくー北海道」運動 大賞審査開始 ～第8回コンクール大賞審査委員会 第1回委員会を開催～

北海道開発局は、「わが村は美しくー北海道」運動（以下「わが村運動」という。）第8回コンクールで、優秀賞を受賞した14団体の中から大賞候補団体の選考を行う大賞審査委員会の第1回委員会を開催します。

第8回コンクールには、全道70市町村から86団体の応募があり、優秀賞14団体、奨励賞26団体を決定し表彰しました。

コンクール2年目となる本年度は、優秀賞14団体の中から大賞の表彰を行うこととし、大賞候補団体の選考を行う大賞審査委員会の第1回委員会を下記のとおり開催します。（詳細は別紙を参照ください。）

### 記

- 1日 時 平成29年7月4日（火） 10:00～16:30
- 2場 所 北海道開発局研修センター 1階会議室  
（札幌市東区北6条東12丁目）
- 3その他 審査選考過程のため、傍聴、撮影は冒頭挨拶までとさせていただきます。  
なお、表彰団体は9月下旬頃ホームページ等で公表する予定です。

### 【「わが村は美しくー北海道」運動とは】

わが村運動は、地域住民が主体となり、北海道の農山漁村・農林水産業を通じて地域づくりを行う活動に対して、様々な人たちが「参加しよう」、「広げよう」、「いいもの伝えよう」をキャッチフレーズにこうした活動にかかわっていかうとするもので、平成13年から行っています。

「わが村は美しくー北海道」運動の情報は、ホームページに掲載しています。

[http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou\\_sin/ud49g7000000emhm.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html)



【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

農業水産部 農業振興課 課長補佐 伊藤 克人（内線5683）

農業水産部 農業振興課 農村振興第2係長 池上 大地（内線5685）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



**「わが村は美しくー北海道」運動 第8回コンクール大賞審査委員会  
第1回委員会の開催について**

7月4日（火）に「わが村は美しくー北海道」運動 第8回コンクール大賞審査委員会第1回委員会を開催します。

**1 コンクールの開催について**

北海道開発局では、道内各地の住民主体の地域活性化活動を支援し、農山漁村地域の発展に寄与することを目的に、平成13年から「わが村は美しくー北海道」運動を推進しており、この運動の一環としてコンクールを開催しています。

コンクールには、これまで全道166の市町村から1,111団体の応募があり、延べ215団体を表彰しています。

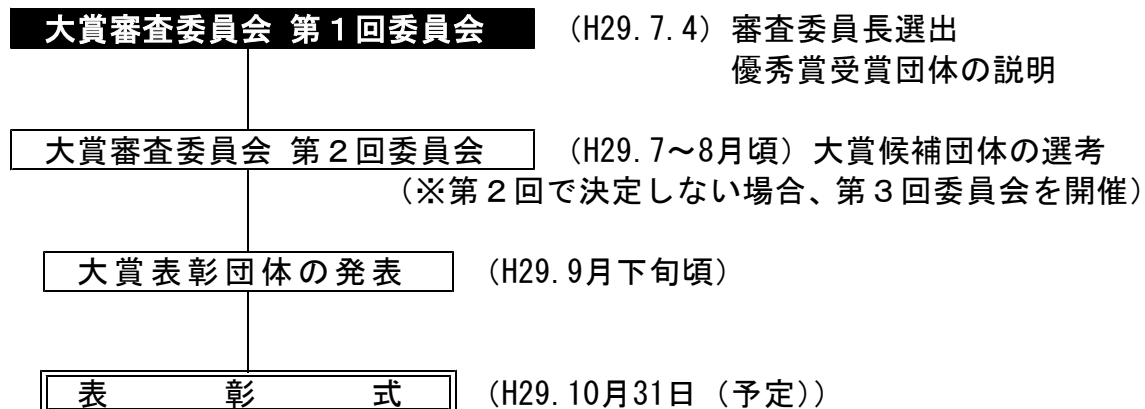
**2 大賞審査委員会第1回委員会の開催について**

第8回コンクールには、全道から86団体の応募があり、本年3月までに優秀賞14団体及び奨励賞26団体を表彰したところです。

コンクール2年目となる本年度は、優秀賞受賞14団体の中から大賞の表彰を行うこととし、大賞候補団体の選考を行う大賞審査委員会の第1回委員会を下記のとおり開催します。

**記**

- 日時 平成29年7月4日（火） 10:00～16:30  
（※審査選考過程のため、傍聴、撮影は冒頭挨拶までとさせていただきます）
- 場所 北海道開発局研修センター 1階会議室  
（札幌市東区北6条東12丁目）
- 議事次第
- ・開会
  - ・農業水産部長挨拶
  - ・審査委員紹介
  - ・審査委員長選出、挨拶
  - ・審査議事（優秀賞受賞団体の活動概要説明ほか）

**○大賞審査スケジュール**

「わが村は美しくー北海道」運動 第8回コンクール大賞審査委員会

委員名簿

(五十音順 敬称略)

有山 忠男	株式会社ライヴ環境計画 代表取締役社長 NPO法人ガーデンアイランド北海道 事務局長
飯澤 理一郎	一般社団法人 北海道地域農業研究所 所長
加藤 聡	北海道土地改良事業団体連合会 専務理事
中井 和子	中井景観デザイン研究室 代表 NPO法人「わが村は美しくー北海道」ネットワーク 理事長
中島 則裕	生活協同組合コープさっぽろ 専務理事
原田 亜紀	株式会社JTB北海道 営業5課 (地域振興・交流拡大担当)

# 第8回コンクール優秀賞受賞団体一覧表

ブロック	団体名	市町村	活動概要	備考
札幌	北海道幌加内高等学校	幌加内町	町特産の「そば」を、栽培、加工、販売まで行っている。全学年がそば打ちを極め、上段位の合格者を出す日本唯一の高校である。学校でのアンテナショップや新そばまつりに参加し、地域住民との交流も盛んに行っている。	第3回
	WEAVE(ウィーブ)	由仁町	20代、30代の若い農業女性の団体であり、仲間作りとして、交流会を開催。また、農業の勉強として、野菜栽培技術の学習や食品加工技術の習得のほか、地域の活性化のため、地域イベントの「ハロウィンカーニバル」の主催などを行っている。	新規
函館	えさし水土里の会	江差町	地場の米や野菜を用いたお菓子や漬物など地域に根付いた特産品づくりを行い、地域の伝統文化を守るとともに、それらを販売することで次世代へ伝承する活動を行っている。さらに、新たな特産品の開発を行い、地域の新たな魅力作りを進めている。また、町内の観光スポットで地域の野菜を観光客などに販売し、地域の農業を多くの人に知ってもらっている。	新規
小樽	寿都地域マリンビジョン協議会	寿都町	道外の修学旅行生や一般ツアー客を対象に地引き網体験等を組み入れた漁業体験を継続的に実施。平成27年5月には台湾から5日間で延べ約2,400人が漁業体験に訪れた。平成27年には「浜直市場」での直売も開始した。また、水産加工残渣と間伐材チップを混合固化した施肥の製造等による磯焼け対策の取組や海岸クリーン大作戦等の活動にも取り組んでいる。	第7回 (奨励)
旭川	北海道旭川農業高等学校 食品科学科 米粉班	旭川市	米の消費拡大と旭川永山の美しい田園風景を守り続けるため、平成21年から米の消費拡大を目標に米粉の活用法の研究を開始。菓子製造メーカーやコンビニエンスストア等との共同開発によりロールケーキ等を商品開発。また、米粉の利用について広く情報発信している。	新規
	ふらの樹海 やさい工房「しずく」運営委員会	富良野市	農産物直売所の営業活動を通じて地域コミュニティの活性化やそのためのサロンづくりを目指している。過疎化が進む地域において徐々に活動の輪が広がり、地域には無くてはならない場所となっている。秋には地元の中学生が学校農園で育てたカボチャの販売実習を行ったり、地域のお祭りやイベントを企画・開催し、地域活動の中心となっている。	新規
室蘭	観光物産館農産物販売協議会	伊達市	道の駅伊達歴史の杜「伊達市観光物産館」内の農産物直売コーナーにおいて、市内で生産された農産物(野菜・穀物・果物・花)を販売している。農産物を通じて地域の活性化を目指し、農産物直売所が農産物生産者と消費者の交流の場として定着し、観光拠点の一翼を担い、地域シンボルの中核となっている。伊達野菜の知名度アップと地域振興に大きく貢献している。	新規
釧路	NPO法人 厚岸ネット	厚岸町	食と文化と歴史の町あつけしをテーマに特産物の牡蠣をはじめ、町の全ての産業や観光資源などを広く全国にPRし人の交流を図るため、牡蠣や町の水産業、文化、歴史を問うご当地検定の「牡蠣博士認定試験」を実施するとともに、平成28年度から「酪農博士認定試験」も行っている。	新規
	有限会社 渡辺体験牧場	弟子屈町	放牧主体の酪農業の傍ら平成7年から「こころ」をキーワードに酪農「体験牧場」を経営。その体験者数は修学旅行客等年間約3万人に及んでいる。また、並行して自家生産牛乳の加工販売、JAや地元業者と連携した商品開発・製造を行っており、地域農業や観光の活性化に寄与している。	新規
帯広	十勝パンを創る会	帯広市	平成24年に十勝産小麦の価値を最大限に高めた十勝パンを創造するため管内のパン工房などにより設立。生産者、消費者とも連携し、十勝産小麦100%の十勝パンブランド確立を目指し、十勝パン候補を毎年、開発・販売し、平成29年に成果の発表を予定している。平成32年(2020年東京オリンピック)には首都圏で十勝パンを販売し、内外にアピールすることを目指している。	新規
	(株)アグリファッショングループ	帯広市	平成27年に農業生産法人として設立。法人の活動主体である「十勝ガールズ農場」(女性農業者3名)を平成28年からスタートし、営農とともに、グリーンツーリズムマップの作成、とかち帯広空港マルシェの運営、地域団体と連携した農村景観の保全などを行っている。	新規
網走	株式会社 知床ごんた村	斜里町	斜里町の農業の良さを知ってもらうため、宿泊型農業体験施設を作り、農作物収穫体験やそれを使ったピザ作り体験を観光客向けに行ったり、地元の小学生を対象に農業体験学習(食育授業)を行うなどしている。	新規
留萌	留萌市食農教育推進協議会	留萌市	留萌市内の小学生を対象とした田植え体験、稲刈り体験、農村絵画コンテスト等の食農教育活動を通じて、留萌市における農村地域の活性化と、子供たちに対する体験学習を推進している。	第7回 (奨励)
稚内	うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会	枝幸町	会の発足以来40回のウォーキングの集いを開催し、延べ1,000人以上の参加を頂いている。ウォーキングは単なるレクリエーションではなく、森林を育てる・活用する・利用するなかでの、利用する一環で行っている。	第6回 第7回 (奨励)

※ 備考は、応募歴(新規、継続(応募回)、応募回下段の( )は受賞歴を記載している。